

東京都小中学校環境教育研究会会報

東京の青い空

第61号

会長 藤森克彦 品川区立第三日野小学校 TEL 03-3441-7780

事務局長 阿閉暢子 多摩市立愛和小学校 TEL 042-374-9881

HP <http://kankyokyoiku.jp>

未来の青い空への架け橋を創る

環境省大臣官房環境教育推進室 室長補佐 池田 怜 司

今、当たり前のものである「東京の青い空」。環境教育の歴史を紐解くと、この青い空は、かつて子ども達を守ろうとした様々な先人の努力によるものと思います。しかし、今日の「青い空」は突然表情を変え、時に「観測史上初の」という言葉を生み出すことも少なくありません。また、人々の心の中に漠然とした「暗い雲」があり、環境を考える余裕がないようにも思います。

2002年に日本政府からの提案により開始された「国連ESDの10年」は、2014年のユネスコ世界会議をもって一区切りを迎えました。この間の変化を挙げるとすれば、その一つに「新たな企業活動のカタチが芽生えてきた」ことがあるように思います。半世紀前であれば、企業活動は環境負荷の象徴としてみなされたかもしれません。しかし、近年「自然と共に美しく生きる」といった理念を掲げ、本業を通じて環境課題と社会課題を関連的に解決しようとする企業が出てきています。こうした企業の活動は、環境・社会・経済の統合的な成長を目指すものであり、まさに持続可能な社会の構築を目指す活動と言って過言ではないと思います。

昨年度、環境省において、大学生にこうした活動取材してもらい、その魅力を発信するという事業を行いました。取材を終えた学生は、目を輝かせながら「人」の魅力を語り、特に、既存の概念にとらわれず、人の主体的な行動を引き出し、それをイノベーションという大きなうねりに繋げている点に魅力を感じたようです。

また、先日、地方公共団体の環境教育・学習担当者を対象とする研修を行いました。そのカリキュラムの中で、新たな企業活動のカタチを体験してもらうプログラムを実施したところ、童心に返ったように楽しみ、結果として、企業や人づくりに対するイメージが変わったようです。特に、20代前半の方は、自らの小・中学生時代の体験を思い出し、「総合的な学習の時間」の可能性に言及していました。

こうした企業活動のカタチは、小さな芽生えなのかもしれません。他方で、最近「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」の「体験の機会のある場」の認定制度を活用して、子どもと社会をつなぐ「架け橋」を創ろうとする企業が出てきています。中には、「キャリア教育と環境教育」を融合させるなど、学校現場の実態に配慮したプログラムを提供しているところもあります。

子供たちが未来に「真の青い空」を見ることができるよう、先人達が創り出した可能性と社会が繋がる「架け橋」を創っていくことが、環境教育やESDの次のステージであり、今を生きる大人に求められる役割ではないでしょうか。

なお、先にご紹介した大学生のレポート（冊子「*imagine ESD*」）は、ESD活動支援センターのホームページで紹介されています。この冊子を授業に応用された教員の方もいらっしゃいます。興味のある方は、お手隙の際にぜひご一読いただければ幸いです。

[ESD活動支援センター <http://esdcenter.jp/>]

平成 29 年度東京都小中学校環境教育研究会総会報告

平成 29 年 6 月 12 日(月)、品川区立第三日野小学校において東京都小中学校環境教育研究会総会を開催しました。議事として、平成 28 年度事業報告、決算報告、会計監査報告、新役員承認、平成 29 年度事業計画案、予算案、研究計画案について審議し承認されました。また、総会後は文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官の 濱野 清 様より「次期学習指導要領と環境教育・E S D」と題してご講演をいただきました。

◆平成 28 年度事業報告

1 平成 28 年度総会 6 月 13 日 (月)

品川区立第三日野小学校

2 研究部の活動の充実

- ・夏季研修会(8 月 1 日)

品川区立第三日野小学校

- ・授業実践と事例研究
- ・現地研修会

自然観察会…明治神宮の森(9 月 10 日)

野鳥観察会…井の頭公園(1 月 21 日)

3 全国小中学校環境教育研究会との連携

- (1) 第 48 回全国小中学校環境教育研究大会参加 平成 28 年 11 月 18 日(金)

福島県須賀川市立白方小学校

校長：内山 博行

- (2) エネルギー研修会 施設見学会

平成 28 年 7 月 21 日(木)

東京ガス扇島工場

田町スマエネセンター

4 第 52 回東京都小中学校環境教育研究会

発表会 平成 29 年 2 月 10 日(金)

品川区立第三日野小学校

校長：藤森克彦

6 機関誌「東京の青い空」

No.59 号～No.60 号発行

◆平成 28 年度決算報告

1. 収入

項目	予算額	決算額	適用
分担金	870,000	869,100	
繰越金	372,631	372,631	
研究奨励費	300,000	283,280	都教職員研修センター
利子	0	7	
計	1,542,631	1,525,018	

2. 支出

項目	予算額	決算額	適用
総会費	30,000	10,000	総会要綱印刷代
会場費	50,000	34,542	研究会会場費
事務費	30,000	21,478	事務経費
研究費	350,000	277,040	懸賞資料、学費
講演会費	150,000	128,000	講師謝礼
見学費	40,000	40,000	交通費補助
印刷代	120,000	107,869	機関誌代
通信費	35,000	13,195	送料代
全国大会費	650,000	300,000	全国紙、運営補助
発表会費	80,000	80,000	運営費
予備費	7,631	360	お茶代
計	1,542,631	1,012,484	

3. 会計監査報告

上記の決算について監査により相違ないことを認めます。

平成 29 年 5 月 15 日

会計監査

東京都教職員センター

國分 重隆

江戸川区教育委員会

末吉 潤一

◆平成29年度事業計画

- 1 平成29年度総会 6月12日(月)
品川区立第三日野小学校
- 2 研究部の活動の充実
 - ・研修会
(地球温暖化防止セミナー、3R研修会)
 - ・授業実践と事例報告
 - ・現地研修(自然観察、野鳥観察、動物園)
- 3 全国小中学校環境教育研究会と連携した実践的研究の推進
 - (1) 第49回全国小中学校環境教育研究大会
平成29年12月8日(金)
静岡県菊川市立菊川西中学校
(校長 森田 昌浩)
 - (2) エネルギー研修会 施設見学会
平成29年7月28日(金)
東京ガス根岸工場・田町スマエネパーク
- 4 第53回東京都小中学校環境教育研究発表会
平成30年2月13日(火)
中野区立鷺宮小学校
(校長 渡島 郁弘)
- 5 研究集録第28集の発行
- 6 機関誌「東京の青い空」No.61～No.62 発行

◆平成29年度予算

1. 収入

項目	予算額	適用
分担金	870,000	分担金1校1,000円、900円
繰越金	512,534	平成28年度繰越金
研究奨励費	280,000	都教職員研修センター
研究助成金	250,000	日本教育公務員弘済会
利息	0	
計	1,912,534	

2. 支出

項目	予算額	適用
総会費	30,000	総会要項印刷等

会場費	60,000	定例役員会、研究部会、研究員発表会費
事務費	30,000	事務経費
研究費	500,000	集録作成、研究資料費、環境教育学会会費、夏季研修費
講演会費	200,000	講師謝礼
見学費	50,000	研修会見学費、交通費補助
印刷・広報費	250,000	「東京の青い空」No.61～62 ホームページ更新料
通信費	35,000	通信 送料等
全国大会費	650,000	全国大会紀要作成補助 運営補助等
発表会費	100,000	都発表会運営費
予備費	7,534	
計	1,912,534	

◆平成29年度役員

役職	氏名	学校名	役職
顧問	竹田雄二郎	青梅市立今井小	前校長
会長	藤森克彦	品川区立第三日野小	校長
副会長	棚橋 乾	多摩市立連光寺小	校長
	邊見公子	杉並区立桃井第二小	校長
	野澤由美	府中市立武蔵台小	校長
事務局長	阿閉暢子	多摩市立愛和小	校長
事務局次長	山口京子	杉並区立杉並第十小	校長
	鱒坂映子	町田市立南成瀬小	校長
	箱崎高之	府中市立四谷小	副長
研究・広報部長	關口寿也	多摩市立大松台小	副長
研究・広報部副部長	伊勢明子	杉並区立浜田山小	校長
	石塚裕幸	足立区立千寿本町小	副長
	福井みどり	新宿区立戸山小	副長
会計部長	佐々木智津子	中野区立鷺宮小	副長
会計監査	根本美恵子	国分寺市科学センター	前校長
OB役員	國分重隆	東京都教職員センター	非常勤
	末吉潤一	元江戸川区立西小岩小	元校長
	富田 広	多摩教育事務所指導課	前校長
	杉本茂雄	足立区立鹿浜第一小	区支援員
	宮原 元	品川区立山中小おやこエコクラブ	事業部長

東京都小中学校環境教育研究会 上野動物園研修会 報告

東京都府中市立四谷小学校 箱崎 高之

6月24日(土)、動物を通して環境を考える機会とするとともに、動物園の役割や学校教育での活用方法について、東京都立恩賜上野動物園で現地研修会を実施した。

初めに、動物解説員の小泉祐里氏とともに、クイズラリー「森でくらす動物」に挑戦した。動物の様子をよく見ることで、それぞれの動物が環境に適した姿になっていることを学んだ。小泉氏からは、「動物園に行ったら、動物解説板を読むのではなく、実際の動物の姿をよく見ることで、様々なことに気が付きます。」という話をいただいた。

次に、教育普及係長の鈴木仁氏から「動物園の役割と保全について」講義を受けた。動物園の機能は、1. レクリエーションの場、2. 教育普及の場、3. 自然保護の場、4. 調査研究の場でありこと。また、動物園には、野生動物を飼育繁殖させるための知識や技術施設があるため、野生動物の保全や生物多様性の保全のために重要な施設であることを学んだ。



全国小中学校環境教育研究会エネルギー研修会

東京ガス 根岸工場・田町スマエネパーク 見学報告

東京都多摩市立大松台小学校 関口 寿也

今年度も東京ガス株式会社様のご協力により、7月28日(金)にエネルギー研修会を実施した。熱エネルギーだけではなく、火力発電や燃料電池にも需要が広まっているのLNG(液化天然ガス)への関心の高まりを踏まえ、「東京ガス 根岸LNG基地」と官民連携で地域エネルギーの高度利用をコンパクトに運用している「田町スマエネパーク・エネルギーセンター」の見学を行った。

(1) 東京ガス 根岸LNG基地 <神奈川県横浜市>

根岸LNG基地は、東京ガス株式会社が所有する4つのLNG基地(根岸、袖ヶ浦、扇島、日立)の中で最初に稼働した基地であり、1969年に日本で初めてLNGを受け入れた歴史をもつ。

現在は、LNGの貯蔵や都市ガスの製造と関東圏への送みだけでなく、隣接する東京電力南横浜火力発電所への燃料供給も行っている。隣接する施設では、LNGの超低温(-162℃)を活かして、超低温倉庫(マグロの冷凍)、ドライアイス製造、液体酸素・窒素の製造にもLNGが有効活用がされている。

歴史のある基地であるが、環境・安全に配慮したアップデートも行っている。LNGのもつ冷熱エネルギーを利用した冷熱発電設備を併設し、これは基地の30%の電力を賄っている。都市ガスの製造と送みは、震度7にも耐えうる耐震構造のコントロールセンターにおいて少人数で集中管理され、3交代制で24時間の監視体制が敷かれている。



また、エネルギーとしての都市ガスの安定供給には細心の配慮を払っている。情勢の安定しない地域からの輸入は控え、複数国からLNGを輸入している。これは、調達が多様化による原価の低減にもつながっている。気化したLNGを燃料として航行する12隻のLNGタンカーにより、4つのLNG基地まで超低温の液体のまま運ばれ、基地内15基のタンクに貯蔵されている。

調達、輸送、貯蔵、基地内発電、都市ガス製造、送み、基地管理、隣接施設でのLNGの特性を活かした利用等、環境と省エネルギーに配慮した様々な工夫が見られ、学ぶことの多い見学であった。

(2) 田町スマエネパーク・エネルギーセンター<東京都港区>

新宿や幕張などの大規模な都市エネルギー施設とは異なり、スマートグリッドに基づく地域冷暖房も含めた小規模な地域エネルギー施設である。今後、都市部の再開発に伴ってこのようなシステムがさらに増加してくると考えられており、田町スマエネパークはその一例として官民連携で開発・運用されている。現在は第二期工事が行われており、完成すれば、田町駅東口の再開発地区のエネルギー管理を一手に行う施設となる。大変コンパクトで、これからの都市のエネルギー管理の在り方を学ぶことができた。この施設は、平成28年度の省エネ大賞も受賞している。

東京都小中学校環境教育研究会 夏季研修会

地球温暖化防止コミュニケーター 養成セミナー

東京都多摩市立愛和小学校 阿 閉 暢 子

7月31日(月)に、昨年に引き続き「地球温暖化防止コミュニケーター」資格取得のための養成セミナーを実施した。講師として、日本テレビキャスター・気象予報士の藤森涼子氏をお招きし、地球温暖化についての知識やコミュニケーターとして人に内容を伝えるためのスキルなどを教わった。

今回の研修会で、新たに20名を超える地球温暖化防止コミュニケーターが誕生した。一人一人のコミュニケーターが、それぞれの地域や学校で多くの方に地球の現状を伝えることで、地球温暖化防止についての意識と実践が益々広がっていくことを期待している。



第49回全国小中学校環境教育研究大会（静岡大会）

21世紀「環境の世紀」の提言

《研究主題》 持続可能な社会づくりのための環境教育の推進

～ 環境教育によって育む学力と環境保全意欲 ～

1 日 時 平成29年12月8日（金） 9時50分～16時30分

2 会 場 静岡県菊川市立菊川西中学校（校長 森田 昌浩）

菊川西中 HP（<http://www.city.kikugawa.shizuoka.jp/kikunishi/>）

3 主 催 全国小中学校環境教育研究会（研究会 HP <http://kankyokyoiku.jp>）

4 後 援 文部科学省 環境省 静岡県教育委員会 菊川市教育委員会 全国連合小学校長会
全日本中学校長会 静岡県校長会 小笠校長会 日本環境教育学会 ESD 活動支援センター

5 時 程

9:50 10:15 10:40 11:30 12:30 13:20 14:35 14:45 16:30

受付	説明 移動	公開授業	昼 食	開会式	研究発表 指導講評	休 憩	講 演	閉 会 式
----	----------	------	-----	-----	--------------	-----	-----	-------------

6 公開授業（10:40～11:30）

テーマ 「ふるさと志向力」を高めるキャリア教育		
1年生	2年生	3年生
現役の職業人から生の声を聞くとともに体験活動も行うことにより、働く喜びを実感する。	学校をパーマカルチャの視点でデザインする。	ふるさと菊川を持続可能な街にするため、未来への提言をする。

7 講 演 「ホリスティックな風と環境教育：新学習指導要領を読み解く」

講 師 東京学芸大学 特命教授 成田 喜一郎 氏

8 参加申込 全国小中学校環境教育研究会のホームページに掲載しております第49回全国小中学校環境教育研究大会（静岡大会）第二次案内のPDFをご覧ください。

平成29年度 東京都小中学校環境教育研究会 地区理事

地区	所属小学校名	理事氏名	所属中学校名	理事氏名
千代田区	九段小	中村 裕子	麴町中	宮森 巖
中央区			佃中	宮崎 宏明
港区	芝小	齋藤 幸之介		
新宿区	戸塚第三小	服部 みどり		
文京区	指ヶ谷小	宮入 祥郎		
台東区	大正小	片寄 玲子	御徒町台東中	浦田 哲男
墨田区				
江東区	第六砂町小	加瀬 幸司	辰巳中	遠藤 淳
品川区	大井第一小	木村 己典		
目黒区	大岡山小	板木 孝悦	第十中	佐藤 太
大田区			大森第七中	鶴貝 秀明
世田谷区			桜木中	遠江 義智
渋谷区			原宿外苑中	白倉 昌裕
中野区				
杉並区	高井戸第三小	佐々木 恵子		
豊島区	要小	川合一紀		
北区				
荒川区	第一日暮里小	藤原 一郎		
板橋区	北前野小	太田 眞	板橋第五中	大野 雄一郎
練馬区	豊玉第二小	佐野 匡	大泉第二中	神山 信次郎
足立区	湊江第一小	大森 千里		
葛飾区			東金町中	佐藤 雅章
江戸川区				
八王子市	松枝小	徳丸 幸夫	由井中	和田 薫
立川市			第五中	小沼 孝行
武蔵野市				
三鷹市	連雀学園 第六小	山口 菜穂子		
府中市	四谷小	濱田 忠広		
昭島市	拝島第三小	石川 博朗		
調布市			第五中	高汐 康浩
町田市	図師小	北澤 正博		
小金井市				
小平市	小平第十一小	谷口 雄麿	小平第二中	阿部 善雄
日野市	潤徳小	竹山 弘志	第三中	宮原 延郎
東村山市	大岱小	黒羽 次夫	東村山第四中	海老塚 俊一
国分寺市	第八小	伊藤 徳平		
国立市	国立第七小	森田 弘文		
福生市				
狛江市	緑野小	川崎 貴志		
東大和市	第十小	吉行 一敏	第四中	雨宮 敏彦
清瀬市	清瀬第八小	佐藤 門太		
東久留米市			西中	藪野 勝久
多摩市	愛和小	阿閉 暢子		
稲城市	城山小	佐藤 英樹		
羽村市				
青梅市				
武蔵村山市	大野田小	藤橋 義之		
あきる野市				
西東京市	保谷第二小	古家 新一		
瑞穂町				
日の出町				
桧原村				
奥多摩町				
大島				
利島				
新島				
神津島				
三宅				
御蔵島				
八丈				
青ヶ島				
小笠原村				